

YouTube Content IDについて

YouTubeで稼ぐ

■ オフィシャルチャンネルの収益化

- YouTubeパートナープログラム資格取得
- オフィシャルパートナー資格取得
- ライブ配信におけるスーパーチャット（投げ銭）

■ 第三者の投稿動画のマネタイズ

- Content ID運用
 - ⇒自ら取得
 - ⇒Content ID取得者に依頼

Content IDとは？

YouTube Content IDについて

Content IDとは、YouTubeが承認したコンテンツ所有者に提供している機能で、コンテンツ所有者は、自分のコンテンツと一致する動画に対して、どのような対応策をとるか選択することができます。

- ① 閲覧できないよう動画をブロックする（ブロック）
- ② 動画に広告を表示させて動画を収益化（マネタイズ）
※場合によってはアップロードしたユーザーと収益を分配する
- ③ その動画の再生に関する統計情報を追跡する（トラッキング）

YouTube Content IDについて

第三者がアップロードした動画に、自らのコンテンツが含まれている場合、自動的に特定し、その動画に広告を設定したり、コンテンツの取り下げを行ったりすることが出来る仕組みです。Googleが独自開発したフィンガープリント技術が活用されています。

自身のオフィシャルチャンネルでの収益化以外にも、Content IDを使ってUGC（ユーザー投稿動画）にも広告を表示させ収益化することやブロックもできるため、違法動画対策としても有効な手段になっています。

フィンガープリントとは？

指紋による人物の特定と同様に、音や映像から抽出した**特徴データ（フィンガープリント）**同士を高速に照合することで、音や映像を**特定する技術**です。

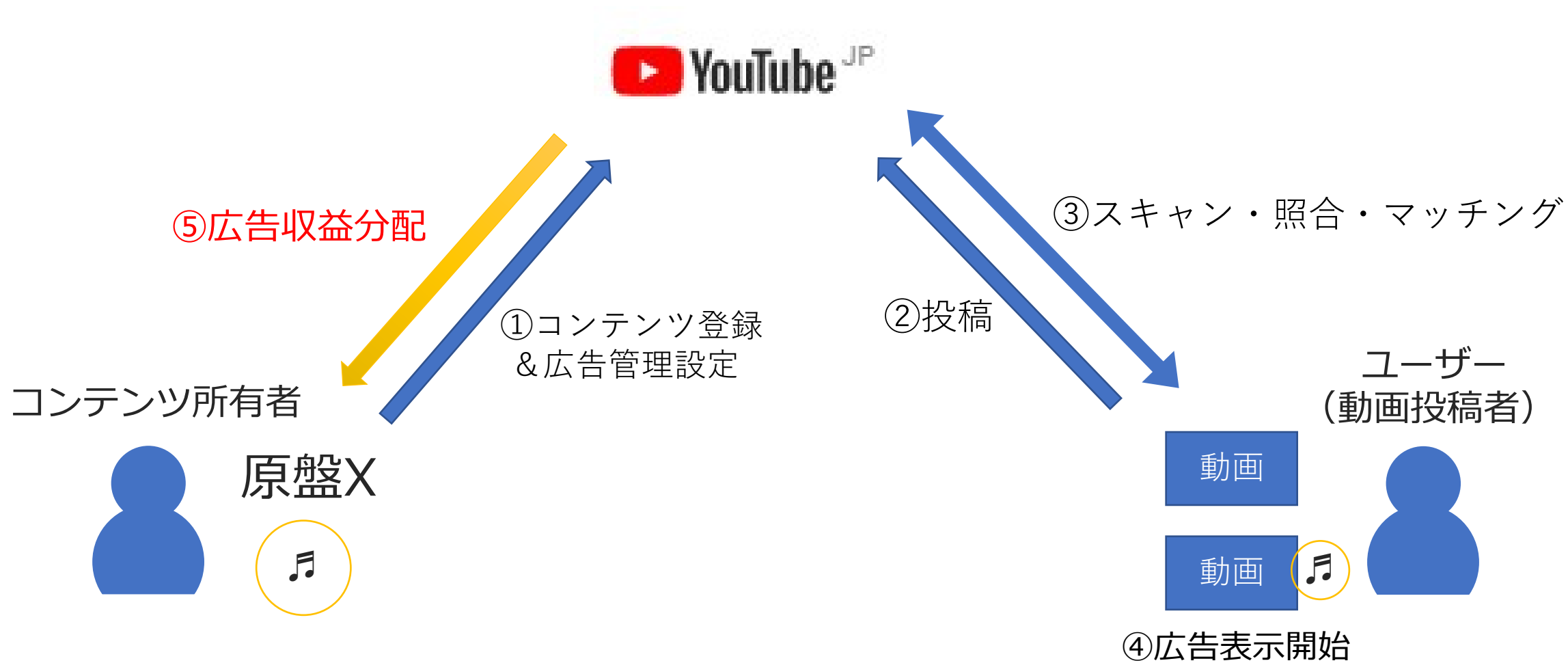
音楽や映像の利用を捕捉する為に国内外で広く活用されています。

権利者へ正しい分配を行うためには、利用者から正しい利用報告を受領する必要があります。そして正しい利用報告を実現する為には、利用される映像にどの音楽が利用されているかを特定する必要がありますが、一昔前までは、放送や動画投稿サイトにおいてどの楽曲が利用されたかを特定することが難しい状況が続いていました。

しかし、フィンガープリント技術の発達により、その問題が少しずつ解決方向に向かっています。

Content IDによる収益化の流れ

YouTube Content ID



YouTube Content IDスキャン対象チャンネル

■ 一般チャンネル

⇒スキャン対象外（広告表示が許可されていないため基本当たらない）
ただし、YPP条件をクリアしているチャンネルは対象

■ YouTubeパートナープログラム（YPP）承認チャンネル

⇒スキャン対象
自らの原盤をコンテンツID運用する場合も当たる
ホワイトリスト化するとスキャン対象外となる

■ オフィシャルパートナーチャンネル

⇒スキャン対象
オフィシャルパートナーがコンテンツID運用すると、自らのチャンネルは自動的にスキャン対象外となっている

最近の話題

■カバー動画

フィンガープリントは、音源による照合がメインですが、YouTubeにはメロディーマッチング機能があり、カバー動画も特定可能です。

この機能により、みなさんがカバー動画をアップした際に、利用作品が特定されると、自動的に収益化がストップします。ただし、所定の手続きを行うと一定の収益が支払われます。

<https://support.google.com/youtube/answer/3301938>

今後全ての作品が対象になる見込みです。